子宮頸がんを防ぐための基本的な心構え

子宮がん

(出典: Pfizer Japan Inc)

--- 肝臓がん

子宮がん

● 肺がん

卵巣がん 🛶 大腸がん

■ 膵がん

•「子宮がん」は、「子宮体がん」と「子宮頸がん」の2つに分けることができる。ここでは、 後者(子宮頸がん)について見ていく。

•子宮頸がんに関する大きな問題点は、若年化が進んでいることである(右グラフ参照)。 近年では、20歳代から罹患者が出始め、40歳代でピークを迎える(右下グラフ参照)。

-子宮頸がんの最大の原因だと言われているのはHPV(ヒトパピローマウイルス; human papillomavirus)の16型や18型の感染である。

<作成:stnv基礎医学研究室>

- •子宮頸がんの8~9割を占めているのは扁平上皮がんであり、16型が主原因だとされている。残りの1~2割を占めているのは腺がんであり、18型が主原因だとされている。
- •16型や18型に感染しても、大部分は自覚症状が無いまま、1年以内に約7割、2年以内であれば約 9割の人でHPVの消失が確認できる。
- ・残りの1割の人は持続感染になって、やがて「前がん病変」 が見られるようになるが、そこから2年経てば、約6割の人は 自然に軽快する。

・2年目以降も、免疫力を含めた体調が良好であれば、自然に軽快していき、10~20年後に子宮頸がんだと判定される人の割合は0.15%だとされている(10万人当たり150人)。

に較べると多くはないが、未だに増加傾向である。 20,000. 卵巣がん 18,000 く罹患数> 16,000 14,000 12,000 10,000 8.000 6,000 4,000 2,000 1975 1980 1985 1990 1995 2000 2005 2010 2015 2020 (原図の出典:札幌孝仁会記念病院)

子宮がんによる死亡者の割合は、他部位のがん

子宮体がん エストロゲン 子宮頸がん ウイルス (原図の出典: NHK)

あ た (原図の出典:佐賀大学医学部産婦人科学教室) 30-34 35-39 50-54 55-59 60-64 30-26= 子宮頸がん 年齢階級別罹患率 2019年 2019年における 罹患率 22= 罹患者数 **10** 20-2020年における 死亡者数 (いずれも 女性全年齡人口 年齢階級別死亡率 2020 10万人当たり) 35 } 39 特に摂取すべきものは、EGCG (エピガロカテキン-3-ガレート: 緑茶な

子宮頸がん年齢別罹患率の推移

若年化

—1983年

---1993年

---2003年

---2013年

罹患率

人口

万

10²⁰

がん情報サービスより作図

HPVに感染しても、99.85%の人は子宮頸がんに罹らない。 そのようなものを子宮頸がんの原因だと言って不適切なワク チンを推奨してはならない。残りの0.15%はHPVの影響を受け るようであるが、それは不適切な食生活が最大の原因である。

(エピカロカナギン-3-カレート; 緑条とどから摂取)、他のファイトケミカル

(参照:https://stnv.blog/egcg/)